

事後評価結果（平成17年度）

事業名	一般国道56号 <small>いっぽんまつちょう</small> 一本松町改良	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：愛媛県南宇和郡愛南町増田 至：愛媛県南宇和郡愛南町満倉			延長	4.6 km

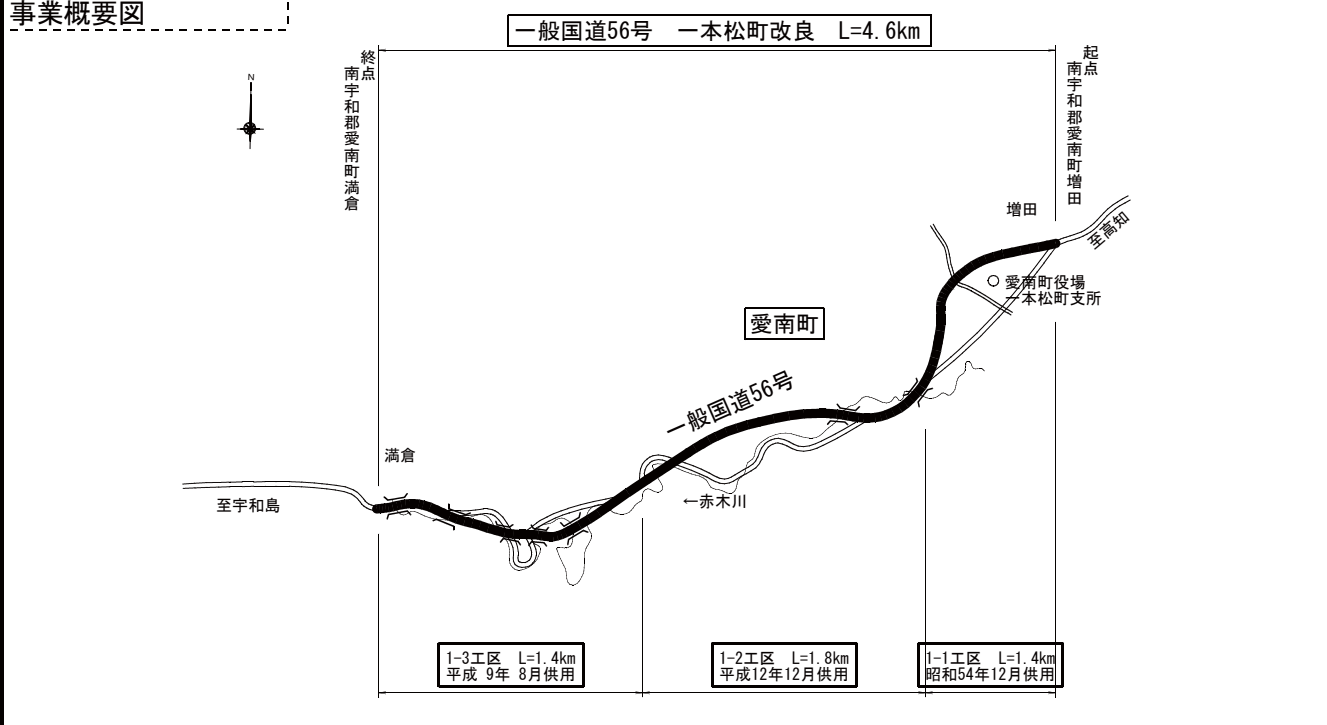
事業概要

一般国道56号は、高知市を起点とし、四万十市、宿毛市、宇和島市、大洲市を經由して松山市に至る延長286.1kmの主要幹線道路である。一本松町改良は、急カーブ、幅員狭隘等の線形不良の解消や歩道の整備を目的とした延長4.6kmの2車線道路である。

事業の目的・必要性

一本松町改良は、線形改良・幅員確保による走行性の向上を図り、交流圏の拡大、さらに産業・観光等の交流・連携に資する道路として地域の発展に貢献することを目的として計画整備されたものである。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度: S51年度	用地着手: S52年度	供用年: (当初) — / H12	変動	1.0倍
		都市計画決定: なし	工事着手: S53年度	(暫定/完成): (実績) — / H12		
	事業費	計画時 (名目値): — / — 億円	実績 (名目値): — / 63 億円		変動	—倍
		(暫定/完成) (実質値): — / — 億円	(暫定/完成) (実質値): — / 63 億円			
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)		変動	—%
		— / — 台/日	— / 6,544 台/日			
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	47.0 → 55.0 km/h		交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	— 件/億台キロ	
		(供用直前年次) S52年度 (供用後年次) H17年度		(供用直前年次) 年度 (供用後年次) 年度		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C: 1.2	総費用 : 130 億円 (事業費: 102 億円 維持管理費: 28 億円)	総便益 : 156 億円 (走行時間短縮便益: 146 億円 走行経費減少便益: 6 億円 交通事故減少便益: 4 億円)	基準年 : H17年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額 : — 億円		便益減少額 : — 億円			
事業遅延の理由						

客観的評価指標に対応する事後評価項目

●農林水産品の流通の利便性向上

・農林業を主体としている愛南町においては、農作物の流通が効率化でき、品質を保った状態での出荷が可能となった。

●三次医療施設へのアクセス向上

・三次医療施設である南予救命救急センターへより早く、より安全に救急患者を搬送することが可能になった。

●線形不良区間の解消による安全性の向上

・現道区間は道路線形が非常に悪く、交通の難所になっていたが、一本松町改良の整備により道路線形の改良と道路幅員の確保、歩道設置等により、安全性・快適性が向上した。

●自動車からのCO2排出量削減

・一本松町改良の整備により、自動車からのCO2排出量は、746t-CO2/年削減された。

他14項目について効果の発現が見られる。

その他評価すべきと判断した項目

●大型店舗の出店やレジャー施設利用等により地域間交流が促進

・愛南町や宿毛市にある店舗やレジャー施設利用等により、県境の交通量が増加。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

■四国縦貫自動車道の供用

○平成12年 7月 大洲～伊予間(L=31.8km)供用開始

■四国縦貫自動車道と大洲道路直結

○平成14年 3月 松山自動車道大洲IC～大洲道路大洲北IC間(供用延長L=1.0km)供用開始

■四国横断自動車道の供用

○平成16年 4月 大洲北只IC～西予宇和IC間(L=15.7km)供用開始

■宇和島道路の供用

○平成17年 7月 坂下津IC～朝日IC間(L=1.3km)2車線供用開始

■愛南町における状況の変化

○平成16年10月 南宇和郡の旧5町村(旧内海村、旧御荘町、旧城辺町、旧一本松町、旧西海町)が合併して「愛南町」となる。

○平成17年 3月 松下寿電子工業が3.5インチハードディスクドライブ(HDD)事業の委託生産契約の完了に伴い、愛南町(旧一本松町)内の生産工場を閉鎖した。

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

一本松町改良の事業による効果の発現は十分なものであり、今後も当該地域において大きな周辺環境の変化はないものと考えられることから、改善措置の必要性はないと考えている。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

特記事項

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。